

平成 22 年 5 月 10 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19510264

研究課題名（和文） タイにおける外国人労働者の移動・労働・生活

研究課題名（英文） Migration, Labor and Life of Foreign Workers in Thailand

研究代表者

北原 淳（KITAHARA ATSUSHI）

龍谷大学・経済学部・教授

研究者番号：30107916

研究代表者の専門分野：経済開発論、東南アジア地域研究、経済政策論

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：タイ、ミャンマー人労働者、量的データ、質的データ、生資料

1. 研究計画の概要

まず、ミャンマー労働者に焦点をあて、タイ・ミャンマー国境地帯の概況調査を行う。その上で、対象を特定地域に絞り、工場労働者を含む多様な移動労働者の量的、質的な調査を行う。この結果を、過去のタイ湾地域の調査結果と比較しつつ、タイにおける外国人労働者の共通性と国・民族ごとの特性とを明らかにする。

2. 研究の進捗状況

2007 年度は、まず、予備調査として、国境地帯県広域概況調査（とくにメーサーイ、メーソート周辺）を行った。2008 年度は、国境に接するターク県に焦点をしばり、メーソート市、メーパ、マーラマート、ポップラ各郡において集中的な調査票調査を実施し、そのデータを集計し、若干の分析作業を行った。2009 年度は、ターク県の中でも、メーソート市の工場労働者、メーパ郡の農業労働者に焦点をしばり、聞き取りによる質的データ調査を実施した。2010 年度は、以上の諸調査によるデータを整理・分析して、報告書を作成する予定である。個別テーマについては、これまでも検討してきたが、ミャンマー労働者をとりまく産業構造と労働市場構造、業種別の労働者の労働条件や生活条件、業種別の労働者管理の体制、国境を越えるインフォーマルなモノ、ヒト、カネの動きの概況、NGO

組織の支援対象の概況とそのバイアス、等である。これらの個別テーマの検討を通して、多くのマスコミ・NGO 組織等の関心や理解と異なり、現実の移動労働者がきわめて多様であり、外部者の関心と支援の対象外の人々も多い、等の諸点について、問題提起をしてみたい。

3. 現在までの達成度

②

特定地域のメーソートについては、業種や地域によるミャンマー人労働者の多様性を把握することができたが、やや農業労働者に重点を置きすぎて、工場労働者の調査が十分とはいえない。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度の今年度は、まず、以上のような個別テーマ、つまり、地域の産業構造および労働市場格の特徴、業種別の労働者の労働や生活の条件、業種別の労働者の管理体制、国境のインフォーマルなヒト、モノ、カネの動きと関連ビジネス、等を検討する。こうした作業を継続した上で、全体的な総括作業を行い、最終報告書作成を行う。こうした個別テーマの検討と全体的な総括の作業の一環として、研究会、学会等での報告をも試みる。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

1. 北原淳・タンタンアウン「ミャンマー(ビルマ)のディアスポラ：国境地帯のカレン族の事例」『社会学雑誌』(神戸大学)26号、2010年(印刷中)、査読有。

2. タンタンアウン・北原淳「ミャンマー・タイ国境地帯における移民労働：メーソート周辺調査地を中心に」『東アジア地域研究会ニュースレター』32号、2009年5月：6-7頁、査読無。

3. タンタンアウン「出稼ぎと農村の変化：モウラミヤイン地区の事例」『愛知大学国際問題研究所紀要』132号、2008年9月：269-282頁、査読無。

〔学会発表〕(計1件)

1. タンタンアウン「平和と地域開発：ミャンマー・タイ国境地帯の事例」国際開発学会、2009年11月22日、立命館アジア太平洋大学。